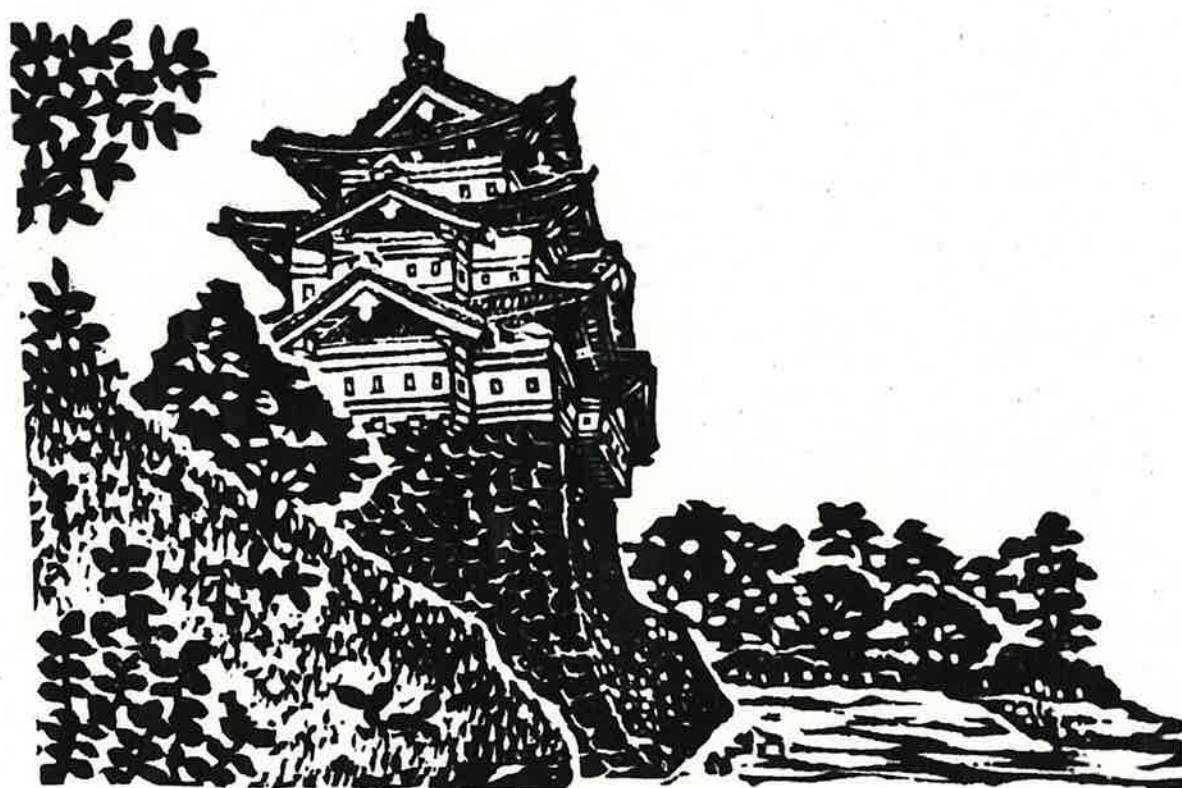


弘前市歴史の風致維持向上計画

(第2期) 変更箇所抜粋



平成31年3月策定

令和2年3月変更

令和3年3月変更

令和4年3月変更

令和5年3月変更

令和6年11月変更

令和7年 月 変更

(2) 弘前市歴史的風致維持向上計画推進協議会

法定協議会である「弘前市歴史的風致維持向上計画推進協議会」を設置している。

【弘前市歴史的風致維持向上計画推進協議会委員名簿】

委員の構成	所属等	氏名
学識経験のある者	弘前大学特任教授 弘前大学教育学部講師	瀧本 壽史 大谷 伸治
重要文化財建造物等の所有者等	長勝寺 石場旅館所有者 弘前市仲町地区伝統的建造物群保存会	須藤 龍哉 石場 久子 今井 二三夫
青森県の職員	青森県都市計画課長 青森県文化財保護課長	垂井 祐司 山舘 久美子
公共団体等を代表する者	(協)弘前文化財建築研究所 (公社)弘前観光コンベンション協会 (一財)弘前市みどりの協会	澤口 正光 小笠原 清寿 小林 勝
公募による市民	公募委員 公募委員	葛西 茉莉 小山 秀晃
市の職員	弘前市都市整備部長 弘前市教育部長	小山内 孝紀 成田 正彦

令和7年(2025)3月現在

【第2期計画】

日 付	項目（会議名など）	主な内容など
平成30年（2018）6月28日	関係課長会議	
平成30年（2018）12月7日	弘前市歴史的風致維持向上計画 推進協議会	
平成30年（2018）12月5日 ～平成31年（2019）1月4 日	パブリックコメント	
平成31年（2019）2月6日	市政推進会議	
平成31年（2019）2月14日	文化財審議委員会議	
平成31年（2019）2月26日	歴史まちづくり計画の認定申請	
平成31年（2019）3月26日	歴史まちづくり計画の認定	
令和2年（2020）4月 1日	歴史まちづくり計画の軽微な変 更届出	
令和3年（2021）3月31日	歴史まちづくり計画の軽微な変 更届出	
令和4年（2022）3月10日	歴史まちづくり計画の軽微な変 更届出	
令和5年（2023）3月3日	歴史まちづくり計画の（変更） 認定申請	第1回 変更申請
令和5年（2023）3月30日	歴史まちづくり計画の（変更） 認定	第1回 変更認定
令和6年（2024）11月19日	歴史まちづくり計画の軽微な変 更届出	
令和7年（2025） 月 日	歴史まちづくり計画の軽微な変 更届出	

(3) 人口動態

明治22年(1889)4月1日に、全国30都市とともに市制を施行した当時の人口は約3万1千人で、その後、昭和30年代の近隣町村との合併により、15万人台となった。平成18年(2006)2月27日、弘前市、岩木町、相馬村の合併を経て、令和7年(2025)1月1日現在約15万9千人となっている。

国勢調査によると、平成7年(1995)をピークに人口が減少傾向に転じている。65才以上の割合も年々増加しており、平成27年(2015)には29.4%にまで上昇しているなど、人口減少、少子高齢化の現象が顕著^{けんちょう}となってきた。

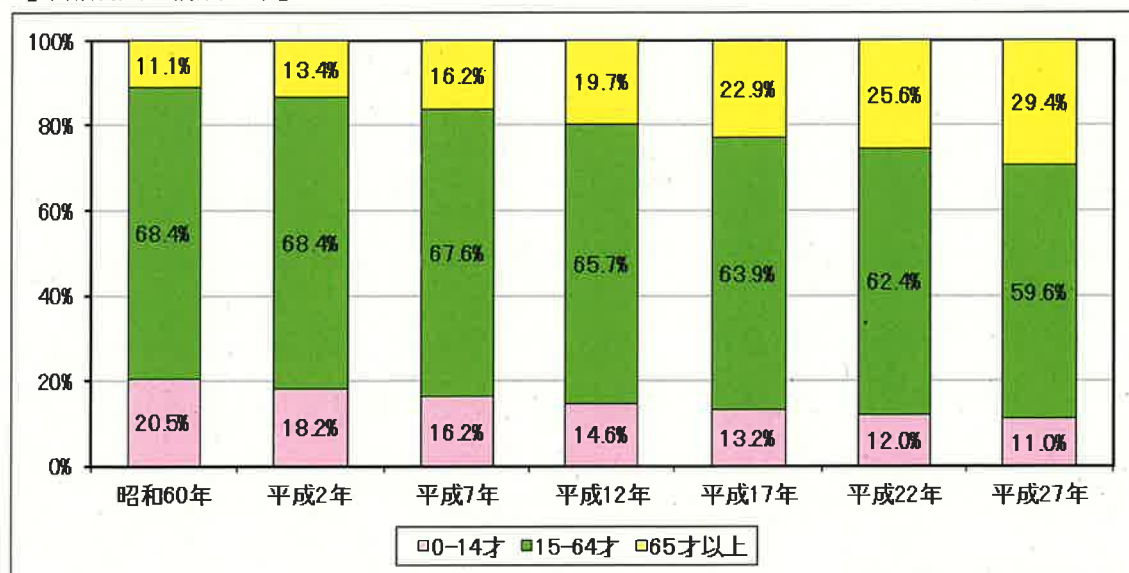
【人口の推移(年齢別)】

(単位:人)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0-14才	39,630	34,703	31,465	28,251	25,051	21,829	19,410
15-64才	132,014	130,750	130,944	126,925	120,732	113,183	105,062
65才以上	21,341	25,591	31,451	37,954	43,199	46,401	51,830
合計	192,985	191,044	193,860	193,130	188,982	181,413	176,302

※年齢不詳は含まない。

【年齢別人口構成比率】



(資料:国勢調査)

(6) 観光

本市は、弘前城跡を始めとする歴史遺産と美しい自然に囲まれており、豊かな観光資源を有している。春は毎年多くの市民や観光客で賑わう「弘前さくらまつり」、夏は「弘前ねぶたまつり」、秋には「弘前城菊と紅葉まつり」や「お山参詣^{やまさんけい}」、冬は北国の冬を楽しむ「弘前城雪燈籠まつり」と、四季それぞれの情緒豊かなまつりを主体として、通年観光を推進している。

当市の観光の拠点となる「弘前市立観光館」は弘前城追手門の向かいに位置し、観光客や市民に観光情報の提供や、伝統工芸品の販売、郷土料理のレストランなどを併設し年間約 35 万人が訪れている。

相馬地区にあるロマンチックピアスキー場は初～中級のファミリー層向けで年間約 1 万人が利用、岩木地区にある岩木百沢スキー場はファミリー層向けコースに加え、中～上級者向けのコースを兼ね備え、年間約 2 万人が利用し、北国の大自然を満喫できる施設として人気となっている。

また、近年では観光客のニーズが多様化し、歴史や自然だけでなく地域の生活文化そのものも魅力となっており、ガイドとめぐるまちあるき観光も盛んになっている。

令和 5 年(2023)の青森県観光統計及び市観光課によると、同年には約 369 万人の観光客が弘前市を訪れ、約 63 万 2 千人が市内に宿泊している。

(資料：青森県観光入込客統計)

【弘前市観光入込客数】



弘前さくらまつり



弘前ねぶたまつり



弘前城菊と紅葉まつり



弘前城雪燈籠まつり

一方で、巨額の工費を要した水力発電所建設などの設備投資が負担となり、しだいに福島酒造や富名醸造などの一連の事業は福島家から離れることになった。

吉野町の福島酒造の酒蔵は、その後、日本酒造工業、朝日シードル株式会社を経て、ニッカウキスキー弘前工場として昭和40年（1965）までシードルを生産していた。富田三丁目の富名醸造は弘前銘醸（株）^{めいじょう}に引き継がれたが、昭和60年（1985）に清酒醸造が廃された。

現在、藤助の酒造り自体を継承するものはないが、藤助が好んだ赤煉瓦造を始めとする多くの建築物が弘前に残されており、富名醸造の赤煉瓦の酒造蔵は、弘前大学に隣接する弘前銘醸の倉庫として現在でも使用されている。

藤助が初めて酒造蔵を建てた場所（茂森町）^{しげもりまち}には、現在、酒小売店である「酒舗イ成豊（しゅほかくいなりとよ）」¹⁵（景観重要建造物）が建っており、街道筋にあった酒屋としての趣を醸し出している。



旧富名醸造（弘前銘醸倉庫）



酒舗イ成豊

¹⁵ 酒舗イ成豊は、藤助の義理の弟である成田豊助が創業した。平成20年（2008）に弘前市趣のある建物に指定され、令和5年（2024）に景観重要建造物に指定された。

^{とのききかしち}
外崎嘉七（安政6年（1859）～大正13年（1924））

キーワード

りんご

明治20年（1887）からりんご栽培を志した。明治38年（1905）には病虫害を防ぐため、初めてりんごに袋をかけ、翌年（1906）には県内全域に袋かけが広がった。また、病虫害の防除として、ボルドー液を採用したり、低い樹形の推進、古くなった枝の更新、剪定鋏^{せんていばさみ}の共同開発など、新技術を広め、りんご産業の発展に尽くした。「青森りんごの中興の祖」、「りんごの神様」と言われている。



外崎嘉七

4. 文化財の分布状況

（1）指定等文化財の分布状況

本市には指定等文化財が272件存在している。国の指定文化財が38件、伝統的建造物群が1件、青森県の指定文化財が64件、市の指定文化財が147件ある。

有形文化財は、弘前城天守を始めとした弘前城内の建造物をはじめ、弘前城跡周辺並びに岩木地区の岩木山神社^{いわきやま}及び高照神社^{たかてる}に多くが集中しており、弘前藩ゆかりの建造物が多くなっている。

また、無形の民俗文化財は、城下町で行われる弘前のねぷたと岩木山神社を起点として行われている岩木山の登拝行事^{とはい}（通称「お山参詣^{やまさんけい}」）、そして藩政時代から継承されてきた神楽や獅子舞、祭礼行事となっている。

そのほかの分野の指定・選定文化財も、この弘前城跡並びに岩木地区の岩木山神社及び高照神社に集中し、残りが市内に散在する分布状況を示している。

このほか、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財が3件、登録有形文化財（建造物）が15件、登録記念物（名勝地）が3件、重要美術品が1件ある。

【弘前市所在の指定文化財等】

令和7年(2025)3月11日現在

種 類		国		県		市	
		指定・選定・認定	登 録	指 定	登 録	指 定	登 録
有形文化財	建造物	23	15	18		12	
	絵画			4		9	
	彫刻			8		16	
	工芸品	4		12		41	
	書跡・典籍			1		7	
	古文書					2	
	考古資料	2		2		31	
	歴史資料					8	
無形文化財		1		1		2	
民俗文化財	有形の民俗文化財			1		2	
	無形の民俗文化財	2		6		8	
記念物	遺跡	2				3	
	名勝地	4	3	1			
	動物、植物、地質鉱物			10		6	
伝統的建造物群		1					
重要美術品		1					
計		40	18	64		147	
記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財		3					

(2) 国指定等の文化財

弘前市には、現在、国の指定・選定文化財が 39 件存在する。その内訳は、建造物 23 件 (45 棟・3 基)、工芸品 4 件、考古資料 2 件、無形文化財 1 件、無形の民俗文化財 2 件、**史跡** 2 件、名勝地 4 件、伝統的建造物群 1 件である。建造物は、弘前城天守を始め二の丸辰巳櫓・二の丸未申櫓・二の丸丑寅櫓・二の丸南門・二の丸東門・三の丸追手門・三の丸東門そして北の郭北門からなる弘前城内の建造物が含まれる。国の指定文化財の多くは、この弘前城と津軽家の菩提寺である長勝寺並びに岩木地区の岩木山神社及び高照神社に集中しており、弘前藩ゆかりの建造物が多くなっている。

藩政時代から連綿と弘前で作り続けられている津軽塗を製作する技術が重要無形文化財の指定を受け、保持団体として津軽塗技術保存会が認定を受けている。

また、無形の民俗文化財の内訳は、城下町を中心に運行される弘前のねぶたと岩木山神社を起点として行われている岩木山の登拝行事（通称「お山参詣」）となっている。

そのほかの分野の指定・選定文化財も、この弘前城跡並びに岩木地区の岩木山神社及び高照神社に集中し、残りが市内に散在する分布状況を示している。

このほか、登録有形文化財が 15 件、登録記念物が 3 件、重要美術品が 1 件ある。さらに、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財が 3 件所在する。

主な指定文化財等の概要は以下のとおりである。

【津軽氏城跡弘前城跡】(史跡)

津軽氏城跡は、弘前藩初代藩主津軽為信が計画し、二代藩主津軽信枚によって築かれた、弘前藩津軽家累代の居城である。本城と、総構である長勝寺構と新寺構とが、史跡として指定を受けている。城は、南北に長く東西に短い矩形であり、南から延びる台地の北端部に主要部を構えている。本丸、北の郭、二の丸、三の丸、四の丸、西の郭の 6 つの郭から構成される平山城で、本丸の四周に石垣が積まれているほかは、すべて土塁に囲まれている。北、東、南の三方には三重に水堀がめぐられ、西側は、蓮池と、かつて岩木川であった西堀に守られている。築城時の城郭の大部分がほぼ旧態をとどめているだけでなく、天守をはじめとした城郭建築もよく残されており、全国的に見て、近世城郭の規模を示すものとして重要である。



津軽氏城跡弘前城跡

【旧菊池氏庭園（弘前明の星幼稚園庭園）】（登録記念物（名勝地関係））

弘前で薬店を営んだ菊池長之の別邸に作庭された大石武学流庭園。昭和10年（1935）に、歩兵第三十一連隊大隊長として弘前に赴任した秩父宮の御仮邸に決定し、主屋はそれに合わせて増改築が行われた。当時の主屋と庭園の様子は、『秩父宮御仮屋写真帖』に記録されている。昭和22年（1947）に主屋が焼失し、庭園を含む敷地が昭和29年（1954）に聖母被昇天教会へ譲渡された。以後、庭園全体に芝が張られ、池には水が入れられないなど、幼稚園の敷地としての整備がなされている。



旧菊池氏庭園

礼拝石の前面の池には、円形の中島を配し、東南の池岸から石橋が架けられている。池の水面は西へと延び、築山の南からさらに西北の方向に延びている。築山の斜面には、三つの景石をくの字形に配置した枯滝石組のほか、その左後方に富士山形をした遠山石が据えられている。

【成田氏庭園】（記念物（名勝））

昭和7年（1932）に、有力なりんご農家・成田幸吉の依頼で大石武学流宗家によって作庭されたもの。枯山水で、ごく狭い地積でありながら巨石、巨大灯籠等を巧みに配して、借景の岩木山と一体化した深山幽谷の景観をつくりあげている。また、大石武学流の作庭技法が地割でも石組でも十分認められ、大石武学流庭園の様式美を最もよく表現している。



成田氏庭園

（3）県指定の文化財

県の指定文化財 64 件の内訳は、建造物 18 件（18 棟）、絵画 4 件、彫刻 8 件、工芸品 12 件、書跡 1 件、考古資料 2 件、無形文化財 1 件、有形の民俗文化財 1 件、無形の民俗文化財 6 件、名勝地 1 件、動物、植物、地質鉱物 10 件である。

主な文化財等の概要は以下のとおりである。

【旧弘前市立図書館】（有形文化財（建造物））

実業家の齋藤主^{さいとうつかさ}や堀江佐吉^{ほりえさきち}らが、日露戦争による利益還元を目的にして建設して市に寄附したもので、設計・施工は



旧弘前市立図書館

ら南へ細長い池が横たわる。

(4) 市指定の文化財

市の指定文化財は 147 件ある。建造物 12 件 (11 棟・1 基)、絵画 9 件、彫刻 16 件、工芸品 40 件、工芸品 (古美術) 1 件、書跡 7 件、古文書 2 件、考古資料 31 件、歴史資料 8 件、無形文化財 2 件、有形の民俗文化財 2 件、無形の民俗文化財 8 件、史跡 3 件、記念物 6 件である。

主な文化財等の概要は以下のとおりである。

【栄螺堂】(有形文化財 (建造物))

天保 10 年 (1839) 頃、弘前の豪商中田嘉兵衛^{なかた かへえ}の寄進により創立され、『津軽古今偉業記』によれば大工は秋田屋安五郎^{あきや げんごろう}なる町大工であったと記されている。内部は右回り廻廊と直進階段を併用して昇降する。六角堂と俗称される。



栄螺堂

【乳井神社社殿 (旧毘沙門堂)】(有形文化財 (建造物))

乳井神社は、中世の津軽に力を持った福王寺の後身と考えられ、社殿は弘前藩三代藩主津軽信義^{のぶよし}が明暦元年 (1655) に毘沙門天堂として建立したものといわれている。元々はこけら葺だったが、文政 3 年 (1820) の修理の際に茅葺に変更され、現在は鉄板葺である。



乳井神社社殿

神仏習合時代の貴重な遺構であるとともに、小屋組の木を縄で結ぶなど、古式の建築様相を色濃く伝えている。一棟を前後に仕切り内外陣としていたが、現在はもとの内陣を幣殿、外陣を拝殿としている。

【旧藤田家住宅】(有形文化財 (建造物))

大正時代は日本の住宅建築の変革期で、居間及び個室が現れ、「中廊下型平面」が成立し定着した。玄関から続く中廊下が住宅を分断し、片側に台所などのサービス部分を、片側に居住区を配列する形式で、旧藤田家住宅はその特徴をよく伝えている。棟札により大正 10 年 (1921) の建築であることが知られ、小説家太宰治が旧制弘前高校在学時の 3 年間に過ごした家でもある。現在は当初の建築場所から約 100 メー



旧藤田家住宅

(5) 指定等文化財以外の文化財

当市には文化財には指定されていないものの、歴史と文化が息づく情緒豊かな建物が数多くある。これら当市の風情を醸し出している古い建物を「趣のある建物」として36件指定し、市民や観光客に発信している。

【御料理なる海】

天保4年(1833)建築。質屋として建築された蔵は、明治時代には銀行の金庫蔵として活用され、現在では1階は懷石料理店として営業している。



つばた文庫
(御料理なる海)

【津軽藩ねぶた村 (蔵)】

慶応元年(1865)、藩の米蔵として建てられ、後に小学校の校舎や味噌蔵としても活用された土蔵は、現在では津軽塗やこぎん刺し、弘前こけし、津軽焼、津軽凧など弘前の民芸品の工房として活用されている。



津軽藩ねぶた村 (蔵)

【^{ひらの}平野】

大正期建築。土淵川沿いにたたずむ門構えが目を引く建物。大正時代に民家として建てられた建物であるが、昭和30年(1955)から割烹として営業されている。



平野

【^{めいじょう}弘前銘 醸煉瓦倉庫】

大正7年(1918)酒蔵として建築された赤煉瓦倉庫で、当初あった8棟のうち4棟は今なお倉庫として使用されている。春には隣接する弘前大学の桜並木と美しいコントラストを見せる。



弘前銘醸煉瓦倉庫

第1章 弘前市の歴史的風致形成の背景

【重要文化財(建造物)】

地図 対照番号	名 称 等	所 在 地
1	弘前八幡宮 本殿	八幡町一丁目
2	唐門	
3	熊野奥照神社本殿	田町四丁目
4	石場家住宅	亀甲町
5	萃秀寺本堂	
6	津軽為信霊展	藤代一丁目
7	盛願時山門	新町
8	東照宮本殿	笹森町
9	弘前城天守	
10	二の丸辰巳櫓	下白銀町
11	二の丸未申櫓	
12	二の丸丑寅櫓	
13	二の丸南門	
14	二の丸東門	
15	三の丸追手門	
16	北の廓北門(亀甲門)	
17	三の丸東門	
18	旧第五十九銀行本店本館	元長町
19	長勝寺 三門	西茂森一丁目
20	御影堂	
21	本堂	
22	庫裏	
23	津軽家霊展 5棟	
24	最勝院五重塔	銅屋町
25	旧弘前偕行社	御幸町
26	弘前学院外人宣教師館	徳町
27	岩木山神社 楼門	百沢寺沢
28	拝殿	
29	本殿	
30	奥門	
31	瑞垣	
32	中門	
33	高照神社 本殿	高岡字神馬野
34	中門	
35	西軒廊	
36	東軒廊	
37	拝殿及び幣殿	
38	随神殿	
39	廟所拝殿	
40	廟所門	
41	津軽信政公墓	
42	旧弘前藩諸士住宅	若党町
43	木村産業研究所	在府町

<配置図(次ページ)対象図>



【県の指定文化財(建造物)】

地図 対照番号	名 称 等	所 在 地
1	旧伊東家住宅	若党町
2	旧岩田家住宅	若党町
3	日本基督教団弘前教会教会堂	元寺町
4	旧弘前市立図書館	下白銀町
5	旧東奥義塾外人教師館	下白銀町
6	熊野宮本殿	西町一丁目
7	三寺仏及びその厨子室	西茂森一丁目
8	久祥院殿位牌室	西茂森一丁目
9	日本聖公会弘前昇天教会教会堂	山道町
10	旧青森県立常中学校本館	新寺町
11	袋宮寺本堂	新寺町
12	眠思寺本堂	新寺町
13	円明寺本堂	新寺町
14	本行寺願国堂	新寺町
15	蔵鬼山神社本殿	十壁内字猿沢
16	岩木山神社社務所	百沢寺沢
17	乳井神社の五輪塔	乳井
18	旧戸谷家住宅	川合字岡本

【市の指定文化財(建造物)】

地図 対照番号	名 称 等	所 在 地
1	描亀園 描亀庵	亀甲町
2	旧青森銀行津軽支店	百石町
3	黒門	西茂森一丁目
4	栄輝室	西茂森一丁目
5	旧小山内家住宅	清水富田
6	旧藤田家住宅(太宰治学生時代の下宿)	御幸町
7	乳井神社社殿(旧毘沙門堂)	乳井
8	藤原信政公室所(瑞垣・木柵・山門)	高岡字神馬野
9	高照神社 文庫	高岡字神馬野
10	高照神社 神庫殿	高岡字神馬野
11	平川家住宅	
12	音門院本堂	西茂森二丁目

【登録有形文化財(建造物)】

地図 対照番号	名 称 等	所 在 地
1	旧第八師団長官舎	上白銀町
2	旧藤田家別邸 洋館	上白銀町
3	和館	
4	倉庫(匠館(旧考古館))	
5	冠木門及び両袖番屋	
6	旧弘前無尽社屋(三上ビル)	元寺町
7	旧制弘前高等学校外国人教師館	文京町
8	石場旅館	元寺町
9	乳井神社社殿(旧毘沙門堂)	元寺町
10	翠明荘(旧高谷家別邸) 洋館	
11	日本館	
12	奥座敷	
13	土蔵	
14	門	
15	弘前市庁舎本館	上白銀町

<文化財（建造物）分布図>



※平川家住宅は部材として解体保存中

【^{かいうんどう}開雲堂】（景観重要建造物、市趣のある建物）

昭和3年（1928）建築。弘前市内でも数少ない看板建築である。看板建築とは、火災の際の延焼を防ぐために外壁に銅版を貼ったもので、時間の経過とともに独特の風合いを醸し出している。

津軽藩の旗印で市章にもなっている卍をかたどった最中が有名であるが、令和6年5月末で閉店した。



開雲堂

【旧^{いちのへ}一戸時計店】（景観重要建造物、歴史的風致形成建造物、市趣のある建物）

明治32年（1899）建築。象徴ともいえるべき円錐屋根の時計塔は、既に100年以上維持されてきたもので、大正5年（1916）の「青森県弘前市俯瞰地図」にも時計台が描かれており、中心市街地である土手町のシンボルとなっている。



旧一戸時計店

【弘前れんが倉庫美術館】

明治40年（1907）建築。外壁は煉瓦で、最も堅実で合理的とされるイギリス積みが採用されている。酒造工場として建設され、近代産業遺産として弘前の風景を作ってきた旧福島酒造（吉野町煉瓦倉庫）を「記憶の継承」をコンセプトに改修し、令和2年（2020）に美術館としてオープンしている。



弘前れんが倉庫美術館
（旧福島酒造）

<重点区域「弘前城下町地区」における文化財の分布状況と境界>



所有者と連携して適宜耐震診断を進め、耐震補強を含めた修理計画を策定する。

指定文化財の修理及び整備にあたっては、法令等に基づいて適宜関係機関と連携を図りながら実施するが、所有者の経済的負担を軽減するため、補助を含めた支援を実施する。

また、保存活用計画によって、中長期的な修理計画や整備計画を定め、計画的な文化財の保護について所有者と行政側が共通認識を形成することが可能となることから、保存活用計画の作成を進めていく。

大規模修理や復元・整備の実施にあたっては、学識経験者、行政、所有者などからなる委員会を組織して適正に事業を進めるとともに、必要に応じて外部の有識者等で組織する専門委員会等を設置して、文化財の本質的価値を損なうことのない修理や整備を行う。

なお、文化財修理の現場公開は、これまでも実施してきたところである。今後も、文化財所有者と連携しながら、伝統技法や修理用資材に対する市民の理解を深めるため、積極的に情報発信していく。



旧弘前偕行社修理現場公開

(3) 文化財の保存・活用を行うための施設に関する方針

弘前市には、登録博物館である市立博物館と高岡^{たかおか}の森弘前藩歴史館のほか、展示公開施設が1施設ある。現在、市立博物館には学芸員が4名、高岡の森弘前藩歴史館には2名の配置があり、所蔵する資料について適正な保存と専門性のある展示解説が行われている。

市立博物館は、史跡である津軽氏城跡弘前城跡弘前城の三の丸南西部に位置し、主として弘前市の通史的な展示を行い、原始から現在に至るまでの、弘前市の歴史・文化・民俗等について学ぶことができる。また、文化財の保存管理やガイダンスの役割も担っており、特に文化財の保存管理については、施設・設備の規模等から、市内の文化財の受け皿として機能している。平成25年(2013)に、老朽化にともなう設備の更新や、展示機能の強化のための整備工事を実施し、文化財をより良い環境で保存・活用することが可能となった。

高岡の森弘前藩歴史館は、平成30年(2018)4月に開館した施設で、それまで、老朽化した施設で保存・公開していた重要文化財2件をはじめとする約5,100点に及ぶ歴史資料を適正な環境で保存し、よりよい方法と体制で公開するために整備し

ある。津軽氏城跡は、市内では堀越城跡と弘前城跡が所在し、弘前城跡は弘前城と長勝寺構、新寺構の3ヶ所で構成されている。

埋蔵文化財の取扱いは、現状保存を基本にやむを得ず遺跡内で開発が計画された場合は、文化財保護法等に基づき発掘調査を実施するほか、必要に応じた保護措置を図る。

また出土遺物については、青森県教育委員会が定める「出土品の取扱基準」により適正に保管・管理及び活用する。

史跡の取り扱いは、国指定の場合は文化財保護法、県指定（現在指定なし）の場合は青森県文化財保護条例、市指定の場合は弘前市文化財保護条例などに基づき、適正な保護を図る。

中でも史跡津軽氏城跡は、『史跡津軽氏城跡整備計画』に基づき、文化庁並びに青森県教育委員会と連携して史跡の保存・整備・活用を図る。

（8）文化財の保存・活用に係る教育委員会の体制

弘前市における文化財の保存・活用に関する体制は、教育委員会内の文化財課が主に担当している。また、文化財の保存と展示については、市立博物館、高岡の森弘前藩歴史館等が担当している。なお、文化財課は、14人で構成し、内、埋蔵文化財の専門職が3人所属している。市立博物館は、8人で構成し、内、学芸員が4人所属している。高岡の森弘前藩歴史館は、6人で構成し、内、学芸員が2人所属している。他に、都市整備部公園緑地課弘前城整備活用推進室に、埋蔵文化財専門職が2人所属している。各事業に伴う専門的な事項への担保については、表のとおり、弘前市文化財審議委員など各種審議会や委員会を設置し、助言・指導を受け進めている。

また、庁内の体制としても弘前城跡については、市長部局の公園緑地課が所管し、文化財課と連携して進めており、全庁的に関係部局が相互に補完しながら、文化財の保存・活用を行っていく。

【旧弘前市立図書館】（県の有形文化財（建造物））

旧弘前市立図書館は、弘前を代表する明治の洋風建築の一つであり、弘前城南東部の追手門広場に立地する。近年、屋根飾りが落下するなど、屋根周りを中心に老朽化が進み、雨漏れが頻繁に起きるなど、文化財建造物としての価値の喪失につながるような状況にあったことから令和2年度に屋根の葺き替え等を実施した。今後も文化財建造物の健全性を確保し、適正に管理を進めていくことを目指す。



旧弘前市立図書館

【実施事業】

事業名	事業期間
弘前城本丸石垣整備事業	平成19～令和9年度
旧藤田別邸保存修理事業	平成26～令和元年度
弘前市仲町伝統的建造物群保存地区修理修景事業	平成18～令和10年度

（3）文化財の保存・活用を行うための施設に関する具体的な計画

弘前城情報館整備に係る史跡津軽氏城跡弘前城跡二の丸発掘調査において、馬場・御高覧所・御宝蔵の遺構が確認された。引き続き、弘前城跡整備指導委員会等の指導を仰ぎながら、これらの遺構表示等の復元的整備を実施することで、二の丸南部地区の価値の顕在化を図る。

指定文化財に設置している説明板について、設置後年数が経過し老朽化が進んでいるものは随時修理を行っているが、積雪等により多くの説明板に傷みが見られる。これまでも状況を調査したうえで計画的に修理を進めてきたが、今後も継続していく。

【実施事業】

事業名	事業期間
鷹揚公園整備事業	平成20～令和10年度

(4) 文化財の周辺環境の保全に関する具体的な計画

弘前市は、平成24年(2012)度に「弘前市景観計画」を策定し、弘前城跡周辺を景観形成重点地区に指定して建築物の高さ制限を設けるなど、文化財と周囲の景観、環境との調和を図っている。また、蓬萊橋からの最勝院五重塔の眺めや、弘前城本丸からの岩木山の眺望などを、建物や工作物の高さに対する制限などを定めた、眺望景観保全地区に指定することによって保護している。

令和元年度まで行った弘前市仲町伝統的建造物群保存地区の保存計画見直し調査により、ツボ庭や通りに面した樹木についても景観を構成する重要な要素であることが確認されている。それらの景観も重要な構成要素と位置付けて、建物と地割・樹木等を含む保存の方針を示す保存活用計画の見直しを行い、令和3年3月に改訂した。

引き続き、歴史的変遷の中で形成された街並みと景観を保存していくため、景観計画等を活用しながら、街路の整備や電線類の地中化などを進めるとともに、文化財への案内板の設置などの整備も進め、文化財周辺の環境の保全に努める。

【実施事業】

事業名	事業期間
伝統的建造物群保存地区地方道改修事業	平成19～令和2年度
大久保堰安全柵改修事業	平成30～令和元年度
市民中央広場整備事業	平成23～令和元年度
主要地方道弘前岳鰯ヶ沢線整備事業	平成23～令和10年度
追手門広場改修事業	平成25～令和10年度
松並木保存管理事業	平成19～令和10年度

事業名称	2 鷹揚公園整備事業
事業主体	弘前市
事業手法	社会資本整備総合交付金(都市公園事業) 〔平成20年度～平成29年度〕 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 〔平成30年度～令和元年度〕 社会資本整備総合交付金(都市公園・緑地等事業) 〔平成30年度～令和2年度〕 社会資本整備総合交付金(防災・安全交付金事業) 〔令和3年度～令和10年度〕
事業期間	平成20年度～令和10年度
事業位置	弘前市大字下白銀町地内 
事業概要	当市の中心に位置し、約49haの面積を持つ鷹揚公園(弘前公園)は、国指定の史跡であり、約2,600本の桜が植栽され、「弘前さくらまつり」の期間中だけで、国内外から200万人を超える観光客が訪れる都市公園である。 しかし、園内施設の老朽化が進んでいるため、老朽化している施設の修繕を行い、安全性を確保する。  
事業が歴史的風致の維持向上に寄与する理由	園内を整備することにより、良好な歴史的景観が保全されるとともに、鷹揚公園の歴史・文化歴魅力の向上につながることから、弘前さくらまつりに見る歴史的風致の維持及び向上に寄与する。

事業名称	7 趣のある建物情報発信事業
事業主体	弘前市
事業手法	市単独事業 〔平成20年度～平成23年度、平成31年度～令和10年度〕 社会資本整備総合交付金(都市公園事業) 〔平成24年度～平成25年度〕 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業) 〔平成26年度～令和6年度〕
事業期間	平成20年度～令和10年度
事業位置	重点区域を中心とした市域
事業概要	文化財の指定を受けていない古い建物を「趣のある建物」として指定し、市民や観光客に情報発信する。 【パンフレット】 
事業が歴史的風致の維持向上に寄与する理由	市独自指定の趣のある建物のパンフレットを作成し市民や観光客に情報発信することにより、城下町の奥深さを体感してもらうとともに、よりよい街並み景観の形成を図り、歴史的風致の維持及び向上に寄与する。

県指定文化財

文化財の 種別/ 指定区分	名称等	年代	員数	指定年月日	所在地	所有者
有形文化財						
建造物						
	久祥院殿位牌堂	元禄 6(1693)	1 棟	昭30・ 1・ 7	西茂森二丁目	隣 松 寺
	三尊仏及びその厨子堂	慶長15(1610) 寛永15(1638)	1 棟	昭32・ 1・11	西茂森一丁目	長 勝 寺
	旧岩田家住宅 附 門 一棟 土地 一筆	寛政年間末～ 文化年間 (1800前後)	1 棟	昭60・ 4・27	若 党 町	弘 前 市
	旧東奥義塾外人教師館	明治33(1900)	1 棟	平 5・ 1・22	下 白 銀 町	弘 前 市
	旧弘前市立図書館	明治39(1906)	1 棟	平 5・ 1・22	下 白 銀 町	弘 前 市
	熊野宮本殿 附 棟札三枚	慶長20(1615)	1 棟	平 5・ 1・22	茜町一丁目	熊 野 宮
	日本聖公会弘前昇天教会 教会堂 附 聖鐘一口	大正 9(1920)	1 棟	平 5・ 4・16 平17・ 7・20	山 道 町	日 本 聖 公 会 弘前昇天教会
	巖鬼山神社本殿 附 厨子一基 棟札一枚	元禄 4(1691)	1 棟	平 5・ 4・16	十腰内字猿沢	巖 鬼 山 神 社
	旧青森県尋常中学校本館 附 棟札一枚	明治27(1894)	1 棟	平 5・ 7・19	新 寺 町	青 森 県
	日本基督教団弘前教会教会堂	明治39(1906)	1 棟	平 5・ 7・19	元 寺 町	日 本 基 督 教 団 弘 前 教 会
	袋宮寺本堂	宝 永 元(1704)	1 棟	平 6・ 4・25	新 寺 町	袋 宮 寺
	円明寺本堂	明和 元(1764)	1 棟	平 6・ 4・25	新 寺 町	円 明 寺
	報恩寺本堂 附 棟札一枚	宝 永 元(1704)	1 棟	平 6・ 4・25	新 寺 町	報 恩 寺
	本行寺護国堂	享保 元(1716)	1 棟	平 7・ 4・19	新 寺 町	本 行 寺
	旧伊東家住宅	19世紀初頭	1 棟	平17・ 3・14	若 党 町	弘 前 市
	岩木山神社社務所	弘化 4(1847)	1 棟	平23・ 8・19	百 沢 字 寺 沢	岩 木 山 神 社
	乳井神社の五輪塔	鎌倉時代	1 基	令 4・ 4・13	乳 井	乳 井 神 社
	旧石戸谷家住宅	江戸時代末期	1 棟	令 6・ 4・ 8	川 合 字 岡 本	弘 前 市
絵画						
	絹本着色当麻曼荼羅図	鎌倉時代 (14世紀前半)	1 幅	平 3・ 3・13	新 寺 町	貞 昌 寺
	新井晴峰筆 紙本着色観桜観楓図屏風	江戸時代後期	1 双	平16・ 1・21	下 白 銀 町	弘 前 市
	紙本着色弘前八幡宮祭礼図巻	19世紀前半	5 巻	令 2・ 9・ 4	下 白 銀 町	弘 前 市
彫刻						
	舞楽面	鎌倉～南北朝	3 面	昭31・ 5・14	百 沢 字 寺 沢	岩 木 山 神 社
	木彫阿弥陀如来立像	室町時代末期頃 (1500前後)	1 軀	昭31・ 5・14	新 寺 町	西 光 寺
	薬師如来三門本尊	江戸時代初期	1 軀	昭32・ 1・11	西茂森一丁目	長 勝 寺
	津軽為信木像	慶長12(1607)	1 軀	昭32・ 1・11	西茂森一丁目	長 勝 寺
	十一面観世音立像	延宝 5(1677)	1 軀	昭33・ 6・25	新 寺 町	袋 宮 寺
	十一面観音像	寛文6または7 (1666・7)	1 軀	昭37・ 6・29	新 寺 町	西 福 寺
	地藏像	寛文6または7 (1666・7)	1 軀	昭37・ 6・29	新 寺 町	西 福 寺
	阿弥陀如来像	江戸時代以前	1 軀	昭37・ 6・29	下 白 銀 町	吉 祥 寺
工芸品						
	短刀 銘 波岡森宗／奥州津軽	大永年間以降 (1521～)	1 口	昭31・ 5・14	在 府 町	個 人
	釣燈籠	室町中期	1 個	昭31・ 5・14	百 沢 字 寺 沢	岩 木 山 神 社
	日本刀 銘 相州住綱廣	江戸時代初期	1 口	昭31・ 5・14	百 沢 字 寺 沢	岩 木 山 神 社
	津軽信政着用具足	江戸時代中期	1 領	昭31・ 5・14	高岡字神馬野	高 照 神 社

市指定文化財

文化財の種類	名称等	年代	員数	※指定年月日	所在地	所有者
有形文化財						
建造物						
	黒門	江戸時代中期	1 棟	昭53・3・30	西茂森一丁目	長勝寺
	栄螺堂	天保10(1839)頃	1 棟	昭54・2・1	西茂森二丁目	蘭庭院
	揚亀園揚亀庵	明治16(1883)	1 棟	平2・10・20	亀甲町	個人
	乳井神社社殿(旧毘沙門堂)	明暦元(1655)	1 棟	平10・11・27	乳井	乳井神社
	旧小山内家住宅	文久3(1863)	1 棟	平13・11・9	清水富田	弘前市
	旧青森銀行津軽支店	明治16(1883)	1 棟	平14・1・30	百石町	弘前市
	旧藤田家住宅(太宰治学生時代の下宿) 附棟札一枚	大正10(1921)	1 棟	平18・3・24	御幸町	弘前市
	藤原信政公霊所(瑞垣・木柵)		2 棟	昭61・1・8	高岡字神馬野	個人
	高照神社 文庫	享保5(1720)	1 棟	平7・11・9	高岡字神馬野	高照神社
	高照神社 神饌殿	18世紀半ば	1 棟	平13・10・15	高岡字神馬野	高照神社
	平川家住宅	江戸時代中期	1 棟	平29・4・14	若党町	個人
	普門院本堂	安永4(1775)	1 棟	令3・5・25	西茂森二丁目	普門院
絵画						
	津軽為信公画像 寛永四年清厳宗渭ノ讃アリ	寛永4(1627)	1 幅	昭38・3・20	藤代一丁目	革秀寺
	紙本墨画淡彩松に虎の図	16世紀以前	1 幅	昭56・7・13	亀甲町	個人
	刺繍両界曼荼羅	江戸時代後期	2 幅	平11・10・27	笹森町	薬王院
	屏風	江戸時代中期	1 双	平4・1・31	高岡字神馬野	高照神社
	信政公葬送図絵巻	天保4(1833)	1 巻	平4・1・31	高岡字神馬野	高照神社
	甲州廿四将之図	19世紀	1 幅	平4・1・31	高岡字神馬野	高照神社
	お山参詣図襖絵	19世紀	4面1式	平15・3・28	下白銀町	弘前市
	絹本着色阿弥陀如来像	室町時代	1 幅	平26・7・4	新寺町	法源寺
	紙本着色元三大師縁起絵巻・慈源大師縁起 絵巻 附箱	享保10(1725)	9 巻	平26・7・4	新寺町	報恩寺
	絹本墨画淡彩返魂香之図 附箱・游魂図説	天明元(1781)	1 幅	令3・5・25	坂元字山元	久渡寺
彫刻						
	木造豊太閤坐像		1 軀	昭38・3・20	藤代一丁目	革秀寺
	木造十一面観音坐像	天正5(1577)	1 軀	昭38・3・20	石川字大仏	大仏院
	木造不朱塗獅子頭	江戸時代初期	1 頭	昭39・6・5	八幡町一丁目	弘前八幡宮
	木造素木龍頭	江戸時代初期	1 頭	昭39・6・5	八幡町一丁目	弘前八幡宮
	木造釈迦涅槃像 附 胎内納入文書二三葉	延宝8(1680)	1 軀	昭53・9・30	新寺町	貞昌寺
	石造狛犬 銘 斎藤平左エ門吉林刻 寛文四年卯月吉日	寛文4(1664)	阿吽 1 対	昭39・6・5	八幡町一丁目	弘前八幡宮
	石造狛犬 銘 奉納 源朝臣金吉安 寛文四年卯月吉日	寛文4(1664)	阿吽 1 対	昭49・10・26	田町四丁目	熊野奥照神社
	石造狛犬 銘 奈良岡権右衛門口温刻 寛文四年卯月吉日	寛文4(1664)	阿吽 1 対	昭50・4・17	桜庭字外山	多賀神社
	十一面観音像(円空仏)	寛文6または7 (1666・7)	1 軀	昭59・2・2	西茂森二丁目	普門院
	石造両界大日如来坐像	宝暦8(1758)	2 軀	昭62・1・21	津賀野字岡本	便心寺
	木造津軽信明坐像 附 體孝院殿御肖像殿 棟札一枚 御厨子 棟札一枚	天保6(1835)	1 軀	平8・12・3	新寺町	報恩寺
	木造津軽寧親坐像 附 御厨子 御神鏡	文政8(1825)	1 軀	平8・12・3	新寺町	報恩寺
	木造金剛力士立像	承応2(1653)	1 軀	令6・7・29	銅屋町	最勝院

参考資料

市指定文化財

文化財の種類	名称等	年代	員数	※指定年月日	所在地	所有者
民俗文化財						
無形の民俗文化財						
	鳥井野獅子踊		1 組	昭61・1・8	鳥 井 野	鳥井野獅子踊保存会
	鬼沢のハダカ参り		1 組	平14・3・29	鬼 沢	鬼 沢 公 民 館
	紙漉沢獅子舞		1 組	平27・12・24	紙漉沢字山越	紙漉沢獅子舞保存会
記念物						
遺跡						
	吉田松陰来遊の地 附 松陰室	嘉永 5(1852)	262.72 m ²	昭53・2・1	元 長 町	(財)養生会
	曹洞宗津軽山草秀寺	慶長 3(1598)	18,807.41 m ²	昭60・1・24	藤代一丁目	草 秀 寺
	堂ヶ平経塚	12世紀代	53,041 m ²	平28・11・4	大沢字堂ヶ平	大 沢 町 会
動物、植物、地質鉱物						
	五本杉	樹齢約500年	1 本	平10・11・5	百沢字寺沢	岩 木 山 神 社
	シダレザクラ	樹齢約300年	1 本	平10・11・5	高岡字神馬野	高 照 神 社
	ウラジロモミ	樹齢約200年	1 本	平10・11・5	高岡字神馬野	高 照 神 社
	サワラ	樹齢約300年	1 本	平10・11・5	高岡字神馬野	高 照 神 社
	石割ナラ及びハリギリ	約250年・ 約100年	2 本	平10・11・5	八幡字長沢	八 幡 町 会
	コブシ	樹齢約100年	1 本	平10・11・5	新法師字稔	個 人
	カエデ	樹齢約500年	1 本	平10・11・5	百沢字山田	個 人

※告示の日をもって指定日とした